

横浜市立浅間台小学校
令和2年度 学力向上アクションプラン（知耕）

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
大地とともに育つ子～感じる・学ぶ・未来～	感じる力 学びに向かう力 未来を創る力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
本校の豊かな自然環境やまちの特色を活かした「三耕教育」を実践し、子どもが夢や希望をもって、なりたい自分をデザインしたりまちの一員として発信したり、社会とつながっていることを実感できる学校を目指します。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく学力 【学習指導】	①未来に向かって自己実現していく子どもを目指し、単元づくりに取り組む。 ②基礎基本の定着を目指した課題と併せて探究的な課題を提示し、児童の学びが広がるように取り組む。 ③授業や学習の環境のユニバーサル化を図り、児童が落ち着いて学習に取り組めるようにする。
担当 学力向上	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

教科によって差はあるが、総合的には横浜市の平均に近い結果だった。「一日にどのくらい本を読みますか。」という質問で、読書量が多い児童に正答率が高い傾向が見られた。このことから読書量が読解力につながり、学力に関わることが分かる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全学年、国語への学習意識が高いが、知識・理解・技能が低い傾向にあり、意欲を学力につなげられていないと分かる。
- 算数科：学習意識も高く、基礎・活用ともに横浜市の平均正答率を上回っている。
- 社会科：ほぼ横浜市の平均と同じである。
- 理科：生活科では学習意識が高いが、理科では学習意識が下がっている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

過去6年間の経年変化の状況から、一定の学力を維持していることが分かる。算数科に関しては高い数値で学力の定着が見られるのは、少人数での学習形態を用い、個に応じた指導の成果と考えられる。他教科に関しても、一人一人が学習を主体的に取り組めるように、学習への興味関心を高め、自身で課題を発見・解決できる姿を目指した授業づくりを研究していく。生活意識では、「話したり、聞いたりして、人とかかわることが好きですか。」という問いに対して「好き、どちらかといえば、好き」と答えた児童が9割を超えている。本校の特色である畑や路耕において、地域の方とかわる時間が充実していることや昨年度外国語活動でコミュニケーション能力を養えるように研究したことの成果であると考えている。人とのかわりの中で、一人ひとりが自己を表現していけるような姿をめざして今年度も研究を深め、安心して学習できるようにしたい。

3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	◇自分の思いをもち、相手に伝える力	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことや知りたいことなど自分の思いをもてるように、一人ひとりの様子をよく見て、思いを受け入れる態度をしっかりと示す。 ・自分なりに見通しがもてるように学習計画を提示することで落ち着いて取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあての意味を理解できるように、子ども達の気づきや疑問をよく聞き、子ども達の思いに沿った学習のめあてや計画をたてる。
2年	◇学習のめあてを発見する力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する興味関心を引き出し、問題を選ぶように提示したり、解決するまでじっくり取り組むための時間を確保したりする。 ・楽しみながら疑問や気づきができるように、具体操作や探検など体験的な学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことを言葉にしたり相手の思いを受け止めたりできるように、ペアや小グループでの活動を意図的に設定する。
3年	◇自分の思いを他者に伝えるように表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを他者に表現する機会を増やすため、ペアやグループ学習など様々な学習形態を内容に合わせて効果的に取り入れていく。 ・見通しをもって学習できるようにするために、課題、自分の考え、話し合い、まとめ、振り返りといった授業の流れを定着させたり、単元計画を子どもと共に立てたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びたい意欲を大切に、課題に対する他者の意見を聞くことを通して、互いのよさに気付くことができるようにする。 ・課題を自己解決し、学ぶ意欲につなげるため、解決方法を選択できるように提示したり、子どもの考えを積極的に認める姿勢を見せる。
4年	◇主体的に学習問題を追求する力	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法の幅を広げられるようにするために、説明する文章、記録報告する文章を書く機会を設けたり、発表する機会を多く設けたりする。 ・各自の学習のめあてや課題を明確にし、意欲的に学習に取り組める環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに根拠をもって明確にしていくために、対話を通じて他者の考え方を知るなど協働していく場を設け、多様な考えに触れられるようにする。 ・課題解決のプロセスに見通しがもてるよう、学習計画を子どもと共に立てる。
5年	◇他者の思いを知り、自分の思いや行動を調整する力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを適切に表現し、他者とのコミュニケーション場面で生かすことができるようにするために、協働的な学習の場を設定する。 ・個々の実態をつかみ、少人数指導やステップアップ学習、一部教科担任制を活用しながら補充的指導、発展的な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を選択したり比較したりする活動を自分の思いだけに固執しないよう、クラスで話し合うなど協力して行うことで課題を解決できるようにする。
6年	◇問題解決のために集めた情報を整理・分析する力	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えを知り、自分の考えを深めたり修正したりすることで、自分の考え方の適用範囲を広げるために、全校や地域に視野を広げより多くの第三者の思い、考え方に触れられるようにする。 ・個々の実態をつかみ、少人数指導やステップアップ学習、一部教科担任制を活用しながら補充的指導、発展的な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の結論や第三者の考え、社会のあり方などを受け止めたうえで自分の思いを柔軟に変化させたり広げたりできるようにする。
個別支援学級	◇自分の思いをもち、他者と適切にかかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、道徳科・自立活動を中心に話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設ける。 ・子どもの発達段階に応じた課題を設け個別に学習する時間と、交流級で集団の中で学習する時間を設ける。 ・教室環境を整え、学習場所・活動場所を分けることで落ち着いて学習できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、道徳科・自立活動を中心に話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設ける。 ・子どもの発達段階に応じた課題を設け個別に学習する時間と、交流級で集団の中で学習する時間を設ける。 ・教室環境を整え、学習場所・活動場所を分けることで落ち着いて学習できるようにする。